

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	土木計画	
科目基礎情報							
科目番号		0057		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		建設システム工学科		対象学年		4	
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教材		奥村 誠「土木計画学」(コロナ社)					
担当教員		加登 文学					
到達目標							
1 土木計画の意義と計画学の考え方を説明できる。 2 土木計画に必要なデータの処理と分析ができる。 3 交通計画・道路計画の手法について理解し、説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		土木計画の意義と計画学の考え方を十分に説明できる。		土木計画の意義と計画学の考え方を説明できる。		土木計画の意義と計画学の考え方を説明できない。	
評価項目2		土木計画に必要なデータの処理と分析が十分にできる。		土木計画に必要なデータの基本的な処理と分析ができる。		土木計画に必要なデータの処理と分析ができない。	
評価項目3		交通計画・道路計画の手法について十分に理解し、説明できる。		交通計画・道路計画の手法について理解し、説明できる。		交通計画・道路計画の手法について理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 (B)							
教育方法等							
概要		【授業目的】 本講では、土木計画の意義やプロセスを理解すること、および計画に必要なデータを収集し数学的に分析する手法について学ぶことを目的とする。					
授業の進め方・方法		【授業方法】 講義を中心に授業を進める。 講義の理解を深めるために、演習課題を与える。 【学習方法】 1. 事前にシラバスを見て教科書の該当箇所を読み、疑問点を明確にしておく。 2. 授業では、予習で抱いた疑問を解決するつもりで学習する。 3. 演習問題を何も見ないで解けるように練習する。					
注意点		【成績の評価方法・評価基準】 中間・期末の2回の試験を行う。試験時間は50分とする。 成績は定期試験(50%)および演習課題の評価(50%)により成績を評価する。到達目標に基づき、「土木計画の意義と計画学の考え方」、「土木計画に必要なデータの処理と分析」、「交通計画・道路計画の手法」の各項目の理解についての到達度を評価基準とする。 【備考】 毎回の授業には電卓を持参すること。 本科目は授業での学習と授業外の自己学習で成り立つものである。そのため、適宜、授業外の自己学修のためのレポート課題を課す。 【教員の連絡先】 研 究 室 A棟2階 (A-215) 内線電話 8895 e-mail: kato アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	インフラストラクチャと土木計画		1		
		2週	計画のプロセスと問題認識の方法		1		
		3週	因果関係の確認と予測(統計の基礎)		2		
		4週	因果関係の確認と予測(推定)		2		
		5週	因果関係の確認と予測(推定)演習		2		
		6週	因果関係の確認と予測(検定)		2		
		7週	因果関係の確認と予測(検定)演習		2		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	答案返却・解答解説とここまでのまとめ		1, 2		
		10週	因果関係の確認と予測(回帰分析)		2		
		11週	線形計画法(図解法)		2		
		12週	線形計画法(シンプレックス法)		2		
		13週	費用便益分析		2		
		14週	国土計画・防災計画		1		
		15週	交通計画		3		

		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	建設系分野	計画	国土と地域の定義を説明できる。	3	後1,後14	
				土地利用計画と交通計画について、説明できる。	3	後15	
				交通流調査(交通量調査、速度調査)、交通流動調査(パーソントリップ調査、自動車OD調査)について、説明できる。	3	後15	
				交通需要予測(4段階推定)について、説明できる。	3	後15	
				交通流、交通量の特性、交通容量について、説明できる。	3	後15	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	0	0	0	50	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0